

はじめに

本フォント及びドキュメントファイルは Windows 上での動作を目的に作成されております。他の環境でのご利用は保障できません。またご利用になった場合、不具合で不利益が発生したとしても、いかなる保障もいたしませんのでご注意ください。修正可能な不具合につきましては、連絡いただければ善処する所存です。個人環境で、十分なテストが行われているとは言えませんので不具合が発生する可能性があります。期待した表示が行われない場合はご了承ください。

このファイルは、同梱の悉曇フォントを利用しております。フォント導入前に読まれますと、一部の文字が化けたり空白で表示される可能性がありますのでご注意ください。

朴筆風悉曇フォントについて

TrueTypeFont「Ap 梵字悉曇式」は、unicode のデーヴァナーガリー領域(U+0900-097F)に悉曇文字を配置し、デーヴァナーガリー入力と同じ方法で悉曇によるサンスクリット入力を可能にしたフォントです。旧フォント「Ap 梵字悉曇」は縦書きを重視したため、限定的な他のグリフ領域を占有しておりました。本フォントは unicode 版のため、基本グリフはデーヴァナーガリー領域に、合字等は全て私用領域(外字扱い)に配置されています。デーヴァナーガリー文字は欧文フォント扱いになりますのでご注意ください。使用しているグリフは旧フォントと同形ですが、コード位置が異なるため互換性がありません。従って旧フォントで作った文章を、本フォントで表示しても同じ文字にはなりません。このため、新・旧フォント間でフォント名とファイル名が異なります。同時に混在して使用することが可能です。

本フォントは、旧フォントにグリフを追加しております。旧フォントで使えたグリフはすべて含まれております。使用可能なグリフは、調査した真言等の資料により大幅に増量しました。詳しくは別ファイルの「文字一覧」をご覧ください。

本フォントはデーヴァナーガリー入力を行わずとも、旧来のコピー&ペースト方式で利用可能なように、体文と摩多を組み合わせたグリフが私用領域に配置されています。このため、全体文33字(+~~々~~)の摩多10字と別摩多2字の変化形グリフがコピー&ペーストできます。また、合字やその摩多変化グリフも同様です。こちらも「文字一覧」ファイルをご参照ください。

動作環境

unicode フォントですので Windows2000 以降の対応になります。それ以外は対応できません。

フォントの組み込み方法

フォント管理ソフトで組み込むなり、Windows の Fonts フォルダにドロップするなりご自由にどうぞ。同名のフォントや、ファイル名が同じフォントが既に登録されている場合、組み込むことができませんのでご注意ください。

悉曇文字の入力方法

通常は、デーヴァナーガリー入力可能な環境では無いと思われるので、環境設定が必要で
す。まず、IME がサンスクリット語・ヒンディー語に対応していないと入力できません。

MS-IME なら言語と地域の設定で対応可能です。GoogleIME はヒンディ版があります。ATOK は
さすがに知りません。インド製のデーヴァナーガリー入力ソフトウェアも何種類かありますが、ご
利用される場合はご注意ください(怪しげなダウンロード専用ソフトの強要や、セキュリティソフト
が警告を発するサイトに接続されることが結構ありました)。

ちなみにインドのキーボードは、日本語キーボードの仮名表示みたいに、キートップにデーヴァ
ナーガリーが刻印されているようです。で、キートップにデーヴァナーガリーが刻印されていない
日本や英語圏のキーボードをご利用の皆様は、ユーザー補助のスクリーンキーボードを使用さ
れますと入力が楽になります。インド系キーボードの表示を覚えていて、タッチタイプな方には必
要ありません。ちなみにスクリーンキーボードは、表示フォントを変更可能ですので、悉曇キー
ボードと化すことが可能です。変更しないとデーヴァナーガリー表示なので覚えるまで大変です。

最後に

本フォント Ap 梵字悉曇式は、FontForge を Windows 環境で使用し作成されました。その作者
と協力者及び、「unofficial fontforge-cygwin」の作者さんに感謝します。

また、フリーフォントとして扱っていただけますので、作成したサンスクリット文章や画像データの
配布・公開等は自由です。合字には複数のパーツの合体データ(張り付けているだけで一つには
繋がっていない)もありますので、グリフのベクトルデータを利用した画像編集ソフトで利用される
場合はご注意ください。また日本語版の *Illustrator* や *Photoshop* の旧版はデーヴァナーガリーに
対応していないものがあります。最近の版でもインド系文字の入力に設定を変更する必要があります。
設定をしていない場合、合字が分解したり、摩多装飾が外れた状態になります。

参考文献及び HP

朱鷺書房刊・児玉義隆氏著「梵字必携」
「まんどろーかのサンスクリット・ページ」
「貝葉に見る般若心経の秘密」
「ぷらっとさんぽ」平成の『般若心経』-摩訶般若波羅密多心経
「e 国宝」梵本心経および尊勝陀羅尼
「大正新脩大藏經テキストデータベース」
「CBETA 中華電子佛典協會」
「Seven Mile Beach File」メモ 361
「ta meta ta phonetika」
その他 Devanagari Font 公開 HP、仏教・密教系 HP

以上

配布元「[電脳亜空間](http://www008.upp.so-net.ne.jp/ajari/)」
T.Nakagawa